

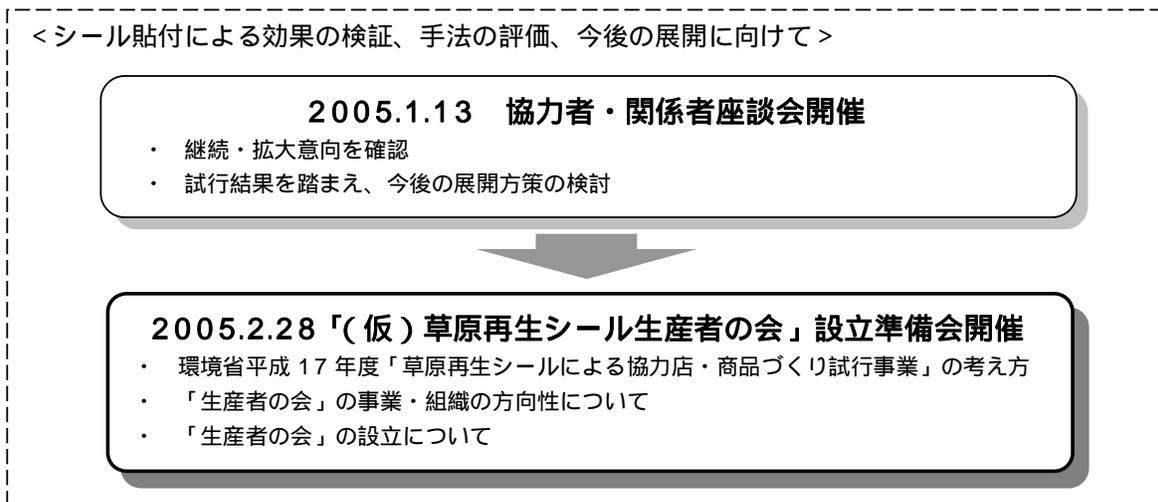
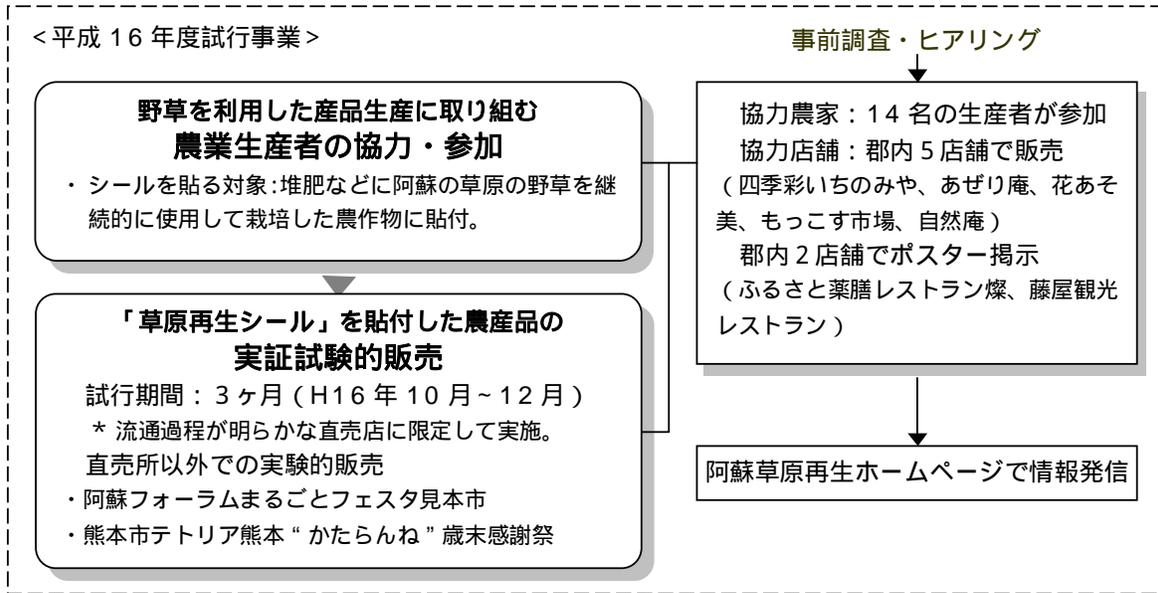


## 1 - 2 「草原再生シールによる草原再生協力店・商品づくり」実施報告

**\*\*ねらいと効果\*\***

： 産品に環境保全の付加価値をつけることにより  
**購入者が増え、地域での野草の利用が促進される。**  
 地元生産農家や商店、消費者などが…  
**積極的に草原再生に関わっていくきっかけとなり、参加の拡大につながる。**

### (1) 取り組みの経緯



H17.4月以降



設立準備会での議論を受けて、事務局体制調整、発足の会開催に向けた準備など

**「(仮)草原再生シール生産者の会」発足**

- ・ 継続意向、新規参加意向のある生産者の登録による「会」の発足、新たなスタート
- ・ 事務局機能を担う組織・人との連携による「会」の運営
- ・ 新規事業提案者と会員の連携による新たな販路の展開 など

## (2) 今後の展開に向けての関係者座談会における主な意見(2005.1.13)

平成16年度「草原再生シールによる草原再生協力店・商品づくり」の取り組みについては、消費者の反応が良かったことなどから都市部への販売も視野に入れたいという意見が出されたり、シールに興味を持つ生産者が新たに出てくるなどの効果もみられ、試行の成果があったといえる。座談会で出された主な意見は次の通り。

### 取り組みの評価

- ・ 福岡で販売したら消費者の反応が大きく手ごたえがあった。
- ・ 市内(「かたらんね」キャンペーン)で購入したお客さんから直接注文があった。田舎の直売所では買いに来る人数が少ないので、今後も「かたらんね」などで月に何回か出ささせていただくような形がいいのではないか。
- ・ シールが貼ってあるとお客さんも関心を持ってくれるので喜んで楽しんで貼っている。
- ・ 青空市場に出荷していた人たちの中にもシールに興味のある人がいる。(以上、生産者)
- ・ 熊本市内や大分の人々が草原再生シールに対して興味をもっていた(直売所)
- ・ 草原再生シールのポスターを貼ってから、はな阿蘇美の中でレストラン燦の料理を食べてくださるお客さんが比較的多くなっている。(飲食店)
- ・ 熊本市の鶴屋デパートの前でチラシを配ったが、「限定販売」、「草原再生」という言葉に通行者は敏感に反応していた。(かたらんねキャンペーン協力者・力丸氏)

### 取り組み継続に向けた意向

- ・ (販路の拡大)都会の人ほどシール商品の価値を理解し、多少高くても購入してくれる可能性がある。福岡や熊本市内での販売も視野に入れることが必要。
- ・ (生産者の拡大・協力)今の生産者の人数では、広範囲に流通させることは難しい。生産協力を増やし、シールが浸透するまで地道に取り組む必要がある。
- ・ (シール商品の高付加価値化・事業としての成立)シール代やPR費等の経費を賄うことに加え、利益もあがり、事業として成立するしくみづくりが必要。
- ・ (組織づくり)取り組みを継続・展開するためには、地元の人の意思によりつくれた組織が必要。また、今後10年後若い人が魅力を感じて参加してもらえよう、成果を残していくことを目標に頑張っていける組織が必要。
- ・ (基準づくり)シールの価値を維持するために使用の基準を明確にすることが必要。野菜だけでなく、漬物などの加工品の扱いなども検討する必要がある。
- ・ (情報発信)シールの存在や趣旨について生産者や消費者にうまく情報発信ができるしくみが備わらなければいけない。
- ・ (農業の新しい展開を)阿蘇には野草というものすごい資源があり、土が生きている。今回のシールを活かして都市に出荷し、消費者と結びついた「顔の見える農業」の展開につなげたい。
- ・ (ゆっくりと着実に)1年や2年では効果は出ない。1年位は現状維持のまま行動を起こし、良くなったとき行動を広げていくことが重要。売れなくても我慢。
- ・ (環境省の支援)当面1年間くらいは環境省が支援できるかもしれないが、うまく地元の取り組みとして動いていくように、引き継いでいかなければならない。

### 今後の展開に向けて(提案)

- ・ 熊本市内や福岡への共同出荷から取り組んでみてはどうか。
- ・ まずは、この会を組織立ち上げの準備会と位置づけ、「(仮)草原再生シール生産者の会」に発展させてはどうか。そのメンバーについては、今後検討しなければならない。

(3) 「(仮称) 草原再生シール生産者の会」設立準備会開催

- ・ 日 時：平成 17 年 2 月 28 日 (月) 13:30 ~ 16:00
- ・ 場 所：阿蘇いこいの村会議室
- ・ 参加者：計 24 人 (事務局 6 名含む)
  - H16 年度事業協力農家：5 名、協力店舗：4 名、参加希望者など：6 名
  - オブザーバー：3 名
- ・ 「環境省平成 17 年度試行事業の考え方」を説明した後、「生産者の会」の目的と性格、事業、会員の範囲、会の運営・管理等について議論、「生産者の会」の事業・組織の方向性について合意された。今後、発起人を中心に準備を進め、5 月以降に活動がスタートする。

草原再生シール生産者の会の目的と性格

- ・ 阿蘇の草原の野草を堆肥等に使った農産物を生産し、環境省事業の趣旨も含めて、シールの活動に賛同する生産者の集まりとする。
- ・ 会員は、野草を利用した農産物生産に努め、それにより草原環境保全に貢献していく、という共通認識のもとで、シール貼付商品の生産、流通を進めていくものとする。
- ・ 会は草原再生シールを使った取り組みの推進、シールの信頼性の確保、シールの発行・管理を行う主体となる。

「阿蘇草原再生シール生産者の会」を中心とした平成 17 年度事業の展開イメージ

